

模型（鳥取大学と県が共同で製作）を使って、 小学生に流域治水を体感していただきました！

～ 国府東小学校、倉田小学校での防災授業 ～

- ・ 鳥取大学と県が共同で製作した模型を使って、県（東部農林事務所地域整備課）が国府東小学校と倉田小学校で防災授業を行いました。
- ・ この模型は、「ため池の低水管理」「田んぼダム」「グランド貯留」「宅内の雨水タンク」などの流域治水対策の効果を表現しております。

【試作品1号】



【試作品2号】



じょうろを使って雨を降らせ、流域治水対策を「行っている場合」と「行っていない場合」を比較



対策を行っている場合は、雨水の流出が抑制（遅れる）される

◎ 今後は、順次、防災授業や地域の防災活動にて活用していく予定です

子供たちの感想

- 「田んぼ」や「校庭の土」が大雨のときに役に立つことがわかった。
- 何も対策をしていないと、すぐに水が一杯になるので危ないと思った。
- 水の出かたに差が付くのがびっくりした。
- 一番実験がおもしろかった。

